

令和5年度第6回南三陸町総合計画審議会 会議録

- 1 日 時：令和6年1月9日（火）午後1時30分から午後2時45分
- 2 場 所：南三陸町役場3階会議室
- 3 出席委員：9名
山内正文会長、高橋長晴副会長、阿部隆委員、伊藤和長委員、及川吉則委員、
行場博文委員、沼倉善子委員、星岳大委員、山内健一委員（氏名カナ順）
- 4 欠席委員：3名
阿部國博委員、阿部和夫委員、久保田正男委員（氏名カナ順）
- 5 事務局：企画課 課長 岩淵武久
企画課 課長補佐兼政策調整係長 阿部好伸
企画課 佐藤悠
- 6 オブザーバー：ランドブレイン株式会社仙台事務所 姜守範
- 7 会議次第：1 開 会
2 挨拶 山内会長
3 議 事
(1) パブリックコメント（将来像を除く意見）に対する回答について
(2) まちの将来像について
(3) パブリックコメント（将来像に対する意見）への回答について
(4) 南三陸町第3次総合計画（素案）について
4 その他
5 閉 会

午後1時30分開会

（事務局）

定刻となりましたので、ただ今から令和5年度第6回南三陸町総合計画審議会を開会いたします。本日の会議ですが、町の総合計画策定支援業務を受託しておりますランドブレイン株式会社仙台事務所の姜チーム長補佐がオブザーバーとして同席しておりますので、委員皆様にご報告いたします。開会に先立ちまして、山内会長からご挨拶をお願いいたします。

山内会長挨拶

（事務局）

会長、ありがとうございました。

ここからは、南三陸町総合計画審議会条例第6条第1項の規定により、山内会長に議事進行をお願いいたします。山内会長、よろしく申し上げます。

（議長）

それでは、規定により、議長を務めさせていただきます。

本日の出席委員が9名であり、過半数に達しておりますので、南三陸町総合計画審議会条例第6

条第2項の規定より、本会議が成立しますことを報告します。

早速、議事に移ります。(1)パブリックコメントに対する回答について、事務局に説明を求めます。

(事務局)

それでは、資料①をご覧ください。

こちらは、前回の審議会でも基本的な考えや方針は了解いただいております、12月25日の第8回専門委員会会議においても、確認等いただいた内容を取りまとめた資料となっています。表の右側が意見に対する町の回答として整理し、アンダーラインの箇所が前回から追加した内容となっています。

事務局より説明

(議長)

前もって資料を配布してもらい内容を確認したが、12月25日の専門委員会会議では、活発な意見交換がなされたと感じた。その中で、委員と事務局で内容を精査しここまで来たと感じている。

審議会委員の皆さんも資料を読んでいただいていると思いますが、将来像を除く部分の回答で専門委員会会議でも了解いただいた内容ではあるが、皆さんからご意見をいただきたい。なければこの基本的な考え方でよろしいか？

異議なし

(議長)

それでは、パブリックコメントに対する回答についての審議を終わります。なお、将来像に対するパブリックコメントの回答については、次の審議が終わった後に行います。

次に、まちの将来像について、事務局に説明を求めます。

(事務局)

これまで将来像については、専門委員会会議や審議会でも時間をかけ議論いただいたところであり、前回の専門委員会会議でも活発なやり取りがありましたが、最終的な結論には至りませんでした。専門委員会会議では、議論し尽くしたので、「ひと 森 里 海 いのちめぐるまち 南三陸」か「森 里 海 ひと いのちめぐるまち 南三陸」の2案あるので、どちらかを将来像にするか、審議会にお任せするという事だったので、最終の審議をよろしくお願いします。

(議長)

事務局からの説明が終わりました。

この将来像については、委員の皆さんに最終的なご意見をいただきたいと思っております。ただ今説明があったように、将来像2案について審議会として意見はございませんか。

(行場博文委員)

捉え方にはなるが、「ひと」が最後だと、「ひと」のいのちめぐるという「ひと」のいのちだけに感じるよりは、「ひと」が先にくることによって山であったり、里であったり、海にもいのちが

あるという感覚になりやすいので、「ひと」が先頭でいいと思う。

(沼倉善子委員)

私も「ひと」が先頭でいいと思う。自然が大切ということも十分理解していますが、「ひと」の関わりから全てが回ってくるのではないかと思う。

(山内健一委員)

「ひと」が先頭でいいと思う。仮に「ひと」が前でも後でもいいというのであれば変更もきくと思う。これが未来永劫、変えられないという固定観念なわけでもなく、その時代に合わせて「ひと」をもう少し後ろにもってきたらいいのではないかという議論が深まってくれば変えたらいいと思うが、今の段階では「ひと」を先頭にもってくるというのは、賛成だ。

(星岳大委員)

以前、パブリックコメントをされた方と話す機会があって、「ひと」を前にすると森里海をないがしろにしているというイメージ、意見書にもあったが、なぜかそう捉えている方がいて、そういうことじゃないと説明した。「ひと」も「森里海」も同列という中で、今度は「ひと」が主役で頑張っていこうという説明があればいいかなと思った。

(阿部隆委員)

私は、現在の将来像がいいと思う。南三陸町らしさを考えると、「ひと 森里海」だとあたり前すぎるなど感じるのと、言葉なので人それぞれ捉え方が違うと思うが、自然と「ひと」を比較すること自体がおかしいなど感じる。やはり、「ひと」は自然とか里とか海から生かされているということは間違いないと自分では思っている。「ひと」が傲慢で自然とかそういったものをないがしろにしたり、従来「ひと」が勝手にそういったものを壊してきているのだから、南三陸町らしさを出すにはかえって「ひと」が後ろにきて森とか里とか海に敬愛というか、いのちをそこからいただいでいて、自然と「ひと」がいのちを繋いでめぐるまちなんだという捉え方もできると思うので、私としては「ひと」が後ろの方がいいと思う。

(及川吉則委員)

最初に、専門委員の方で協議されて、その結果を踏まえて、審議会の方で決定するという中で、今回のパブリックコメントでまた専門委員会で将来像を審議し、決まらなくて審議会に返されてきたという流れか。前回には決まったことなので、それをまた審議会に戻してきたということは、何か問題があったのか。町民の方々の意見はもちろん尊重すべきだが、その一部の考えを通してもう一回協議を上げてきているのは、何か意味があるのか。

(事務局)

前回の専門委員会でも話し合いをした中で、最終的にはキャッチフレーズの順番というよりも「ひと」に込めた思いというか、そういった気持ちを計画の中でも大事にしたいという結果でありました。それを踏まえた上で、最終決定を総計審の皆様をお願いしたいという専門委員会の皆様からのご意見でしたので、今回の審議会でも最終的な将来像の決定ということを決めることを今回の議題とし

たものです。

(及川吉則委員)

専門委員会の方でも決めかねて上がってきているという話を聞いたが、専門委員会では何が迷っているような感じだったのか。

(事務局)

素案では、「ひと 森里海 いのちめぐるまち 南三陸」を将来像として設定させていただいたが、パブリックコメントの意見も一理あるということで、専門委員会でも満場一致ではなく、意見が割れるという状況でもあり、その中で専門委員会としては、時間をかけ議論し尽くしたということであったので、審議会にその最終判断をお願いしたいということであります。

(及川吉則委員)

今回の計画が前から大きく変わってきているような感じでもなく、そもそも「森里海 いのちめぐるまち」という計画で進んできていて、この先も同じような計画で進んでいくという感じで、今年の町長の新年のご挨拶でも「森里海 ひと」という方向でこれからもまちとしては動いていくという話もあったということと、各課でも「森里海 ひと」の方で計画を立ており、その取り組みが進んできて、馴染んでいるという感じだと思う。なので「ひと」を前に出すのであれば、「ひと」をどんな風にしたいのかという意味があるようなものがこの中に盛り込まれているのであればコメントをいただいた人達も納得すると思うし、私的には、別に変えてもいいとは思いますが、パブリックコメントを見ても、自然を大事にするのは当然重要だが、「ひと」の部分重要視していないというような内容にも取れるようなコメントだと感じた。使い慣れているフレーズもいいが、これからワンステップ前に進むというところで、人口減少もあるので、自然だけを重要視するのではなく、町民の生活を守ることだったり、町民が主役となっていくことが大事だと思う。素案にもあるように、これからも自然と共生するまちづくりを進めていくことから、そこはどっちが先だとかというのはなくてもいいと私は思う。

最初に言った言葉が一番大事で、最後の言葉は大事じゃないというものではない。今回は、人口減少や人材育成といったところに力を入れ、自然とともにプラス「ひと」というところをポイントにあげてまちづくりをしていくという意味ではいいと思う。かえってわかりやすくなるのかなと思った。

(伊藤和長委員)

第2次の計画策定にも携わっていた。「森里海」というのは、第2次計画のときにできたもの。自然の中で生活して町民が暮らしていくという大きな町民憲章を基にして、自然といのちの中心に「ひと」を平仮名にもってきて、自然の中で「ひと」との繋がりは当然町民憲章に載っているので、そういうのを大事にしながら南三陸町がいいまちになればいいなというイメージでできたもの。私としては今までどおりの将来像を続けていただけたらと思う。

(高橋長晴副会長)

前回会議でも言ったが「森里海 ひと」でいいのではないかと思う。「ひと」を大事にするの

はもちろんだが、阿部委員さんがおっしゃったように、この町に住んでいて我々は結局自然に生かされている。生態系を考えても自然から人間ができたわけで、人間が最初ではない。そういった意味では、人間が大事だが謙虚になって自然と共にこのまちを作っていくといけないのではないのかなというのが私の考え。

(議長)

委員の皆様も専門委員の皆様もわかっていると思うが、自然と「ひと」は同等だという気持ちだと思う。ただ、そのどちらが言いやすいか、馴染みがあるのか、どちらをこれから求めて南三陸町が進んでいくのかという気持ちを端的に表したのが将来像かと思う。

(山内健一委員)

この審議会の中で意見が割れているような印象を更に与えるようなことは良くない。それぞれの考えはあると思うが、ここは審議会として委員が合意して結論を出した方がよいのでは。会長はどうお考えか。

(議長)

私の意見としては、「ひと」が先頭にきた方がいいと思う。「ひと」から物事が始まるので。震災当時を振り返ると、今まで付き合いのあった人の助けや新たな人の支えがあって、今があると思っている。「ひと」を掲げて、「ひと」を前面に出して、皆さんで力を合わせたまちづくりを目指したい。

(議長)

皆さんからそれぞれ意見をいただいたので、審議会として将来像を決定したいと思います。将来像は「ひと 森 里 海 いのちめぐるまち 南三陸」でよろしいでしょうか。

一同異議なし

(議長)

委員皆さん合意のもと出した結論として、審議会として将来像を「ひと 森 里 海 いのちめぐるまち 南三陸」に決定します。

(議長)

次に、(3)パブリックコメント(将来像に対する意見)への回答について、事務局に説明を求めます。

(事務局)

それでは、将来像について決定いただきましたので、「資料②」と追加で配布しました「資料③」をご覧ください。

資料②は、将来像に限定した意見を一覧として取りまとめたものであります。これに対する回答が資料③となっておりまして、ただ今決定いただいた将来像として回答する内容でございます。

なお、資料③については、前回の専門委員会議においても確認いただき、将来像が決定していない中

でも、こういった内容で共通する部分は回答したいということを説明し、了解をいただいています。

事務局より説明

(議長)

こちらについても、専門委員会議でも了解いただいた内容ではありますが、皆さんから確認を含め、ご意見はありますか

意見なし

(議長)

それでは、最後に(4)南三陸町第3次総合計画(素案)について、事務局に説明を求めます。

(事務局)

最後の議事になりますが、前回の専門委員会議の議事録と一緒に計画素案を皆様に配布させていただきましたが、今回はそれと同じものを資料として準備しております。

この計画素案について、朱書きの箇所が前回からの修正点となっております。

事務局より説明

(議長)

素案の中で、一部文言の修正が必要と思われる箇所があるが。

(事務局)

ご指摘の箇所は、見直し後に修正いたします。

(議長)

前回提示された素案を見直した最終版であり、専門委員会議でも了解をいただいたものであるが、委員の皆さんからの確認があればお願いします。

(沼倉善子委員)

将来像の説明などを見ても、「ひと」や「自然」の繋がりや大切さも感じられるので、文章の中にも温かみや深みが出てきた。

(議長)

最終確認として、事務局には、読み合わせ等をしてしながら文章のチェックをお願いしたい。それでは、総合計画審議会としては計画内容について素案のとおり決定してよろしいか。

異議なし

(議長)

本日の議事は、全て終了となります。

皆様、円滑な議事進行にご協力をいただきありがとうございました。司会を事務局にお返しいたします。

(事務局)

山内会長、議事進行、大変ありがとうございました。

本日は、最後の審議会となりますので、会長から一言いただきたいと思います。

山内会長挨拶

(事務局)

会長、大変ありがとうございました。

その他、委員皆様から何かございませんでしょうか。

最後に、事務局から委員皆様に御礼をさせていただきます。

企画課長から御礼の挨拶

(事務局)

それでは、以上を持ちまして、令和5年度第6回南三陸町総合計画審議会を終了いたします。

皆様、大変お疲れ様でした。

午後2時45分終了